

マリナー安全レポート

第七管区海上保安本部
マリナー安全推進室
TEL 093-321-2931
E-mail:kyuunan-7@kaiho.mlit.go.jp




転落漂流中の磯釣り客3人救助 五島平島1人、長門市壁島2人

12月19日、午前1時頃、釣り客2人は瀬渡船で五島平島東側に上磯した。午前6時前頃、低所で釣り中の1人が突然、高波を受け海中転落（ライフジャケット着用）した。事故を目撃した同行者から警察を通じて通報を受けた海保は瀬渡船に情報を伝達、同船が現場付近に待機していたことから直ちに救助に向かうよう要請し、同6時30分頃、漂流中の事故者を船内に揚収救助した。事故者は最寄の病院に搬送され、生命に別条はないものの、海水吸飲による肺炎、低体温症、負傷（踵骨にひび割れ）と診断された。

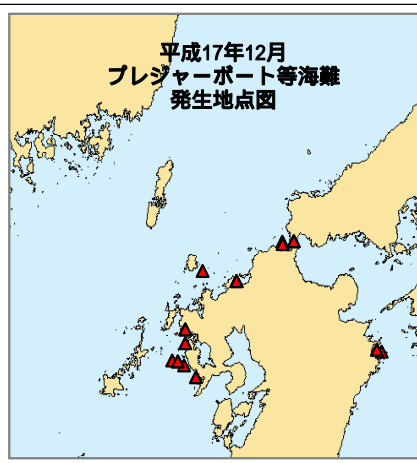
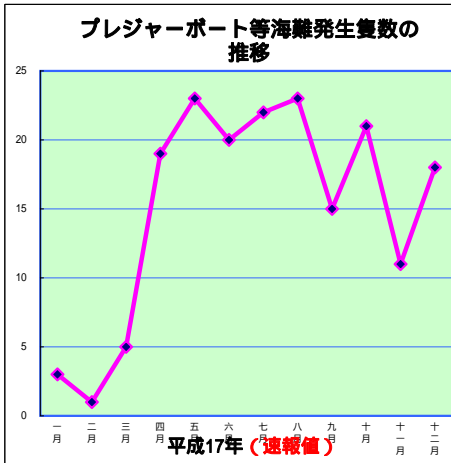
12月20日、午前9時頃、釣り客2人は瀬渡船で仙崎湾口の壁島に上磯した。その後次第に足元を波が洗うようになり、午後零時前頃、釣竿等が波にさらわれたことから危険を感じ、他の磯に上がっていた同僚を通じて瀬渡船に迎えを依頼した。午後零時頃、両人は高波を受け海中転落（ライフジャケット着用）し、午後1時頃、漂流していたところを迎えに来た瀬渡船が船内に揚収救助した。事故者は最寄の病院に搬送されたが、異常はなかった。

両事案とも、磯釣り中に高波にさらわれ海中転落したもので、釣り場の選択、波浪の危険性等安全に釣りをする上での注意があるそかになっていたことも考えられますが、海水温度の低い時期にもかかわらず救助に至ったのは、ライフジャケットを着用していたことが大きな要因の一つとして上げられます。生存のためには、浮いていることが第一条件です。必ずライフジャケットを着用するよう心がけてください。そして、同僚など周囲の人にも着用を勧めてください。後悔先に立たず・・・です。



平成17年12月
プレジャーボート等
海難発生数

合計	18隻
衝突	4
乗揚	0
転覆	0
浸水	0
推進器障害	2
舵障害	1
機関故障	5
火災	2
爆発	1
行方不明	0
運航障害	2
安全障害	0
その他	1



12月29日午前7時頃、遊漁のため唐津を出港したプレジャーボート（1人乗船）が夕刻になっても帰港しないことから、関係者が捜索しましたが発見できず、午後8時36分に家族から海保に通報がありました。巡視船艇・航空機、僚船等で捜索の結果、翌日午前8時頃、壱岐名島付近で錨泊中の無人ボートが、11時頃、乗船者が名島の磯場に漂着状態で発見されました。死因は海中転落による溺死でした。

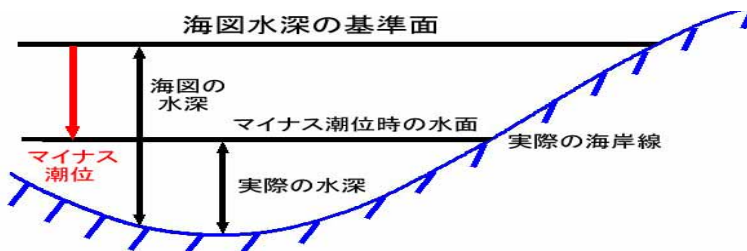
夜間の捜索は、発見の確率が低下します。出港前に、家族等に行先、帰港予定を伝え、予定時刻を過ぎても連絡が取れない時は、迷わず118番通報を！

海の相談室だより（七管本部海洋情報部）

冬季の低潮に注意！

1～2月の大潮期低潮時には、年間を通じて最も潮位が下がるため、実際の水深が海図に記載されている水深よりも浅くなる場合がありますので、注意してください。

毎年、年間を通じて冬季から春季の大潮期低潮時に潮位が最も下がります。特に、1～2月の大潮期（満月もしくは新月の前後）低潮時は、実際の水面が海図の水深の基準面よりも16～45cm（門司、博多、厳原、佐世保、大分）下がる（マイナス潮位）ことがあります。このような場合、実際の水深は海図に記載されている水深よりも浅くなり、普段は航行可能な浅瀬が航行出来なくなります。浅所付近を航行する船舶は、浅所から距離をとるなど十分な注意を払い、潮位を確かめて海図を使用してください。また、水面が普段より下がることから、港内で係留中の船舶は係船索の長さに余裕を持たせるといった注意が必要です。



（注意）マイナス潮位時には、実際の水深は海図に記載されている水深よりも浅くなります。

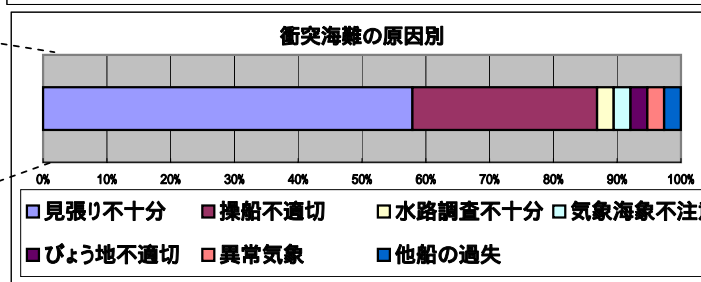
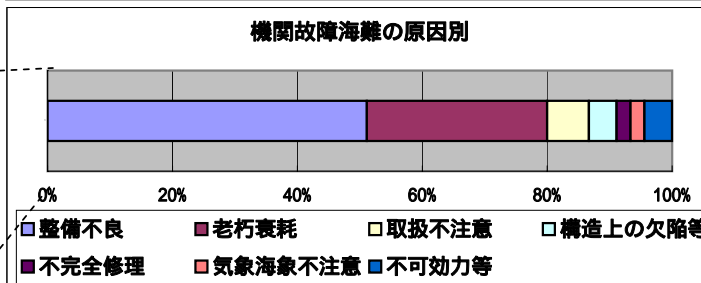
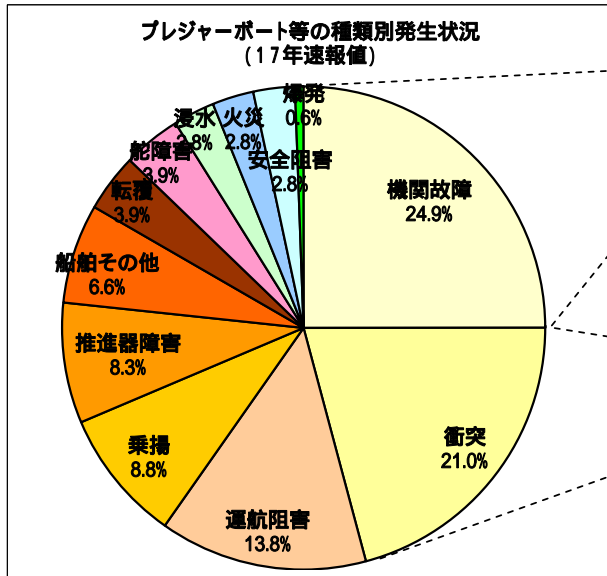
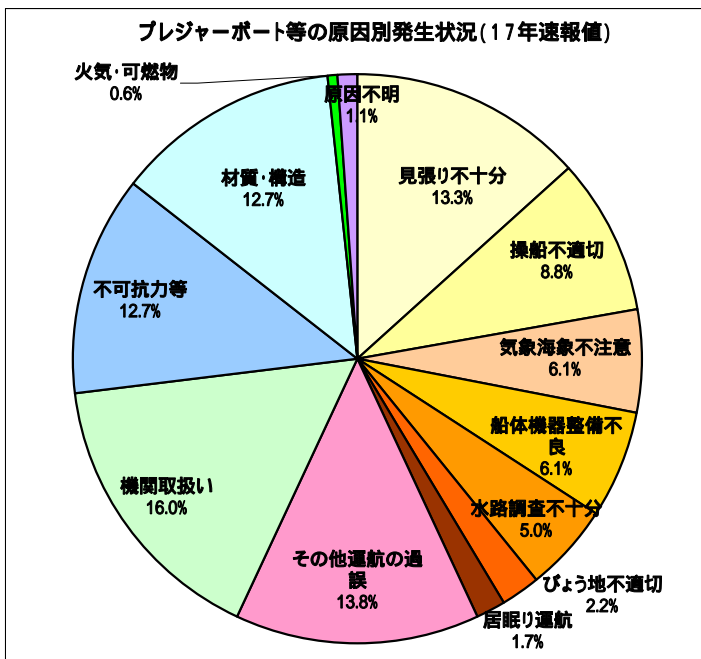
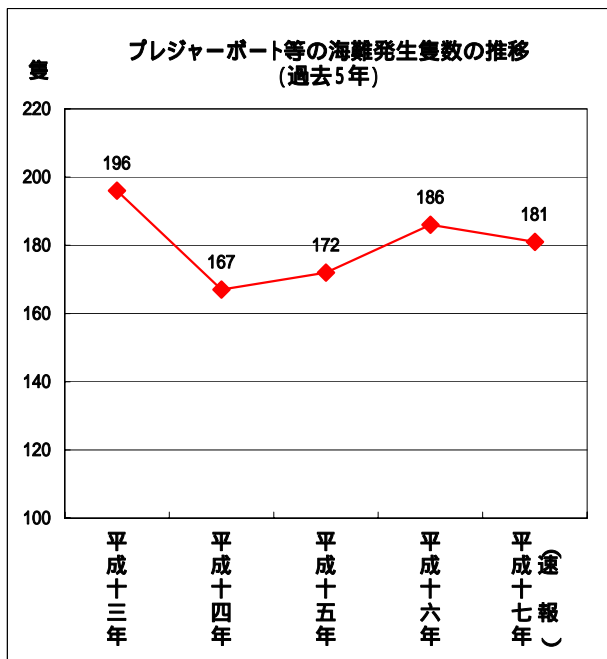
平成17年プレジャーボート海難の状況（速報）

17年のプレジャーボート及び遊漁船の海難は、181隻（速報値）となり、依然として高い発生状況です。内訳（プレジャーボート165隻、遊漁船16隻）

これを海難種類別にみると、機関故障が約25%、衝突が21%、次いで運航阻害(ガス欠、バッテリー等)が約14%となっており、原因別にみると、見張り不十分や操船不適切等による運航の過誤が57%、機関取扱い約16%、不可抗力と材質・構造がそれぞれ約12.7%となっています。

相変わらず、プレジャーボート等の海難は、機関故障と衝突、運航阻害が多く、その原因は、機関取扱い不良や見張り不十分などといった乗船者の不注意によるものが多発していることがわかります。

以上のように、海難事故は、皆さんのチョットした不注意により発生しています。今年も十分気を引き締めて、海難事故に遭わないようにしましょう！



ライフジャケット着用状況（全国）

	ライフジャケット着用			ライフジャケット非着用		
	事故者数	うち死亡・行方不明者数	生存率(%)	事故者数	うち死亡・行方不明者数	生存率(%)
船舶からの海中転落者	264	24	91%	400	163	59%
釣り中の海中転落者	52	10	81%	158	82	48%

(平成17年全国統計)

左表は、漁船とプレジャーボートからの海中転落者、釣り中の海中転落者のライフジャケット着用状況です。

ライフジャケットの着用が生存率の向上に寄与していると考えられますが、船舶からの海中転落者の着用率は40%、釣り中の海中転落者の着用率は25%で、まだまだ着用に対する意識は低いようです。